

令和7年度 第3回一関市スポーツ推進審議会

日時：令和7年11月14日（金） 14：00～15：30

場所：一関保健センター栄養指導室

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 議 題

(1) （仮称）第2期一関市スポーツ推進計画の素案について

4 その他

5 閉 会

スポーツ推進審議会委員名簿(R08.1.29まで)

No.	役職名	氏名
1	委員	伊藤 成子
2	委員	及川 加奈子
3	委員	及川 圭二
4	委員	小野寺 勝
5	委員	小幡 和夫
6	委員	佐藤 義行
7	委員	亀谷 キイ子
8	委員	菊池 正人
9	委員	佐々木 賢治
10	委員	橋本 ゆかり
11	副会長	須藤 光子
12	委員	清田 博美
13	会長	平野 和彦
14	委員	藤原 洋
15	委員	佐々木 貴浩
16	委員	阿部 富美雄
17	委員	千葉 京子
18	委員	千葉 美幸
19	委員	沼倉 恵子
20	委員	渡邊 和貴

修正版 2025.12.11現在

第2期 一関市スポーツ推進計画

計画期間：令和8年度～令和12年度

令和8年3月

目次

第1章 計画の概要

- 1 計画策定の背景及び趣旨
- 2 計画の位置づけ
- 3 計画の期間
- 4 本計画におけるスポーツの定義

第2章 本市のスポーツを取り巻く現状と課題

- 1 市民のスポーツ活動について
 - 1-1 市民のスポーツをする活動の実施状況
 - 1-2 市民のスポーツをみる活動の実施状況
 - 1-3 市民のスポーツを支える活用の実施状況
 - 1-4 スポーツ教室等の開催
 - 1-5 子どもの体力の現状とスポーツ活動
 - 1-6 高齢者や障がい者のスポーツ活動
- 2 競技スポーツについて
 - 2-1 スポーツ選手や指導者の育成
 - 2-2 スポーツ大会の開催・支援
- 3 スポーツ団体等について
 - 3-1 市民のスポーツ活動を支える団体等
 - 3-2 スポーツ団体等への支援
 - 3-3 スポーツ団体等の課題（懇談会より）
- 4 スポーツ施設について
 - 4-1 市のスポーツ施設の現状
 - 4-2 学校体育施設の活用
 - 4-3 市のスポーツ施設への要望
- 5 スポーツを通じた交流について
- 6 市のスポーツの推進に対するニーズ
 - 6-1 市民が期待するスポーツの推進
 - 6-2 ワークショップでの意見等
- 7 現行計画の主な成果のまとめ

第3章 基本理念と基本目標

- 1 基本理念
- 2 基本目標

第4章 目標達成に向けた施策

- 1 施策の体系
- 2 SDGsを踏まえた取組
- 3 スポーツ推進施策の展開
 - 1) スポーツを「する」市民の拡大
 - 2) スポーツを「みる」市民の拡大
 - 3) スポーツを「ささえる」市民の拡大
 - 4) スポーツで「つながる」機会の拡大

第5章 計画の推進

- 1 計画の推進にあたっての指標
- 2 計画の推進体制
- 3 計画の進行管理

資料編

- 1 スポーツ活動・施設のあり方に関する意識調査
- 2 スポーツ関係団体等との懇談会
- 3 一関市のスポーツを考えるワークショップ
- 4 一関市スポーツ推進審議会委員名簿
- 5 計画策定の経過
- 6 スポーツ施設一覧

第1章 計画の概要

- 1 計画策定の背景及び趣旨
- 2 計画の位置づけ
- 3 計画の期間
- 4 本計画におけるスポーツの定義

第1章 計画の概要

1 計画策定の背景及び趣旨

スポーツ基本法においては、スポーツは、世界共通の人類の文化であり、国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠なものであるとともに、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利であるとされています。

近年、少子高齢化やライフスタイルの変化、人間関係の希薄化による地域社会の変化など、急激な社会情勢の変化の中、スポーツを通じた地域コミュニティの活性化、スポーツを活用した交流人口の増加や地域活性化といった、社会的効果への期待も高まっています。

国は、スポーツ基本法（平成23年法律第78号）に基づくスポーツ基本計画により、スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことで国民みんながスポーツの価値を享受できるものとし、「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大へ取り組んできました。また、令和4（2022）年度から令和8（2026）年度までの5年間を計画期間とする「第3期スポーツ基本計画」では、東京2020の遺産を生かしながら、国民が「する」「みる」「ささえる」ことを新に実現できる社会を目指し、スポーツを「つくる／はぐくむ」、スポーツで「あつまり、ともに、つながる」、スポーツに「誰もがアクセスできる」の3つの視点を新たに掲げ、施策を展開しています。

また、岩手県では、令和6（2024）年度から令和10（2028）年度までの5年間を計画期間とする第2期岩手県スポーツ推進計画を策定し、「スポーツの推進による県民誰もが健やかで輝く岩手の創造」を目指す姿として、施策を展開しています。

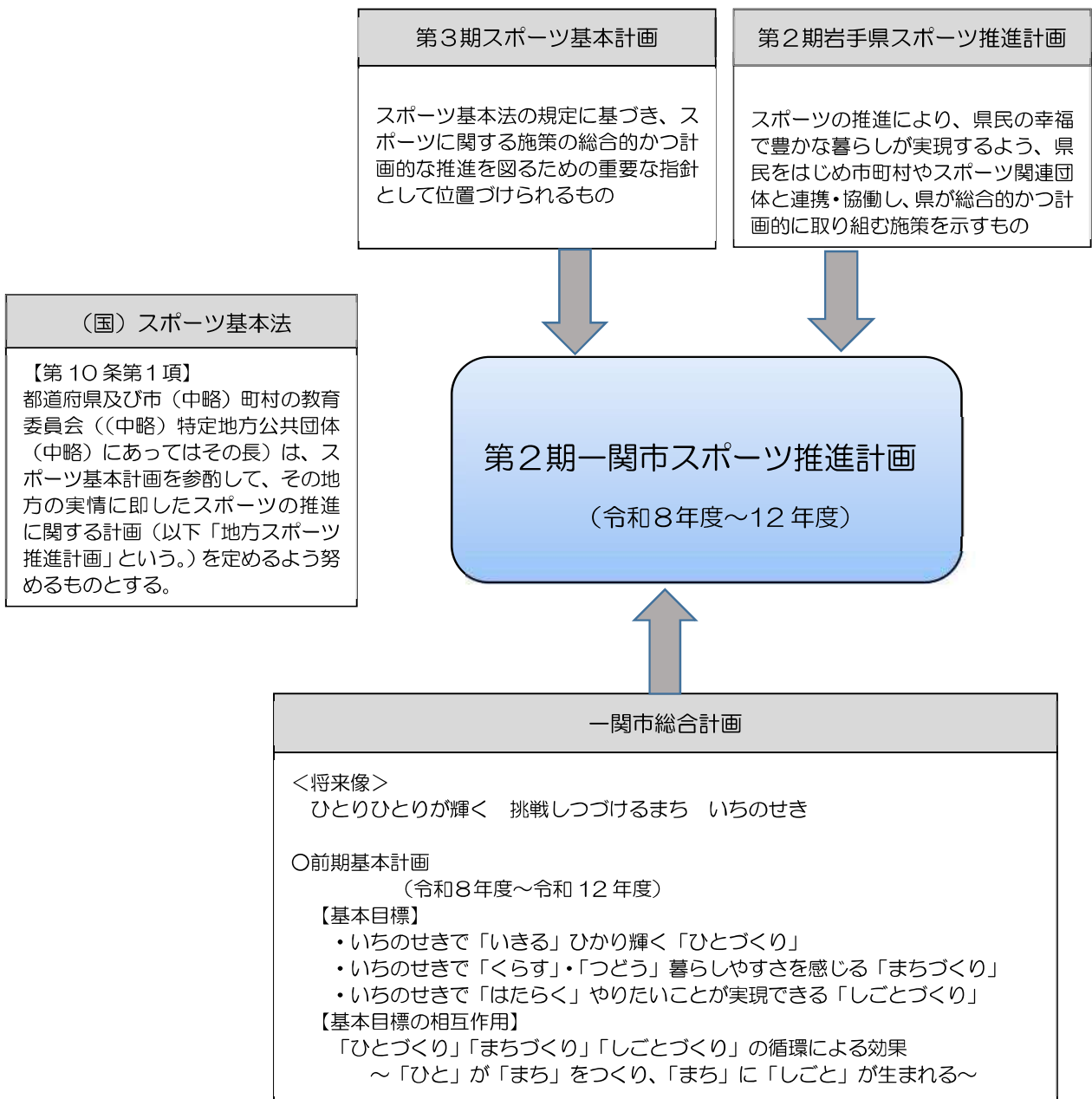
本市においては、令和6（2024）年度に令和8（2026）年度からの10年間のまちづくりの指針となる次期一関市総合計画構想を策定し、「ひとりひとりが輝く 挑戦しつづけるまち いちのせき」を目指すまちの将来像としました。また、令和7（2025）年度に一関市総合計画前期基本計画（計画期間：令和8（2026）年度から令和12（2030）年度まで）を策定し、各分野別計画による施策を進めることとしております。

この度、本市のスポーツ施策の個別計画である第1期一関市スポーツ計画の計画期間が令和7（2025）年度で終了するため、前計画の基本理念を継承・展開する「第2期一関市スポーツ推進計画（計画期間：令和8（2026）年度から令和12（2030）年度まで）」を策定し、スポーツ推進の施策に取り組むものです。

2 計画の位置づけ

本計画は、スポーツの施策に関する基本事項を定めた「スポーツ基本法」（平成 23 年8月施行）の第 10 条に規定されている「地方スポーツ推進計画」として策定するもので、本市におけるスポーツの推進の基本的な方向性を示すものです。

また、「一関市総合計画」を上位計画として、本市が目指すまちづくりの実現に向け、本市のスポーツに関する施策や事業を具体的に示す個別計画です。



第2章 本市のスポーツを取り巻く現状と課題

- 1 市民のスポーツ活動について
- 2 競技スポーツについて
- 3 スポーツ団体等について
- 4 スポーツ施設について
- 5 スポーツを通じた交流について
- 6 市のスポーツの推進に対するニーズ
- 7 現行計画の主な成果のまとめ

第2章 本市のスポーツを取り巻く現状と課題

1 市民のスポーツ活動について

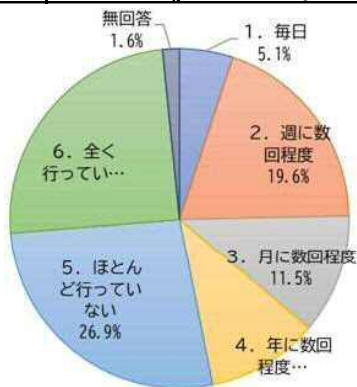
1-1 スポーツをしている市民の割合

令和7年度に、18歳以上の市民を対象に実施した「スポーツ活動・施設のあり方に関する意識調査」の結果（以下「アンケート結果」という。）では、日常的にスポーツをしている人（週に数回程度以上スポーツを行っている人①+②）の割合は24.7%であり、日常的にスポーツをしていない人（ほとんど行っていない、と全く行っていない人⑤+⑥）の割合は51.6%となっています。

前回（令和2年度）に実施したアンケート調査では、日常的にスポーツをしている人（週に数回程度以上スポーツを行っている人）の割合が28.8%であったので、5年前より減少している結果となっています。

また、年代別では30代から50代のスポーツを行っている割合が低くなっています。

		①	②	③	④	⑤	⑥	
		毎日	週に数回程度	月に数回程度	年に数回程度	ほとんど行っていない	全く行っていない	無回答
全体		5.1	19.6	11.5	10.7	26.9	24.7	1.6
	10代	0.0	57.1	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0
	20代	3.1	31.3	15.6	6.3	25.0	18.8	0.0
	30代	1.8	19.6	12.5	16.1	28.6	21.4	0.0
	40代	1.0	18.6	11.3	9.3	28.9	29.9	1.0
	50代	6.0	14.2	14.2	9.0	27.6	28.4	0.7
	60代	5.1	23.4	10.9	10.3	23.4	25.1	1.7
	70代以上	8.2	16.4	9.3	12.6	29.0	21.3	3.3



資料：令和7年度「スポーツ活動・施設のあり方に関する意識調査」

また、日常的にスポーツをしている人（27.4%）の理由（複数回答）は、多い順に、「健康・体力の維持（91.5%）」、「楽しいから、好きだから（53.7%）」、「ストレス解消、気分転換（47.9%）」となっています。

主に行っているスポーツは、「散歩やウォーキング、徒歩での通勤・通学・買い物」が33.7%で最も多く、次いで「競技スポーツ」が16.6%となっています。

一方、日常的にスポーツをしていない人（63.4%）がスポーツをあまりしていない理由は、「仕事や家事、育児などで時間がない（51.2%）」が最も多くなっています。

条件が整えばやってみたいと思うスポーツでは、「散歩やウォーキング、徒歩での通勤・通学・買い物」（34.6%）、「器具や機器を利用したトレーニング」（28.3%）の割合が多くなっています。

1-2 スポーツをみている市民の割合

アンケート結果では、日常的にスポーツをみている人（週に数回程度以上スポーツをみている人①＋②）の割合は39.4%であり、日常的にスポーツをみしていない人（ほとんど行っていない、と全く行っていない人⑤＋⑥）の割合は27.3%となっています。

スポーツをみている人 (％)

		①	②	③	④	⑤	⑥	
		毎日	週に数回程度	月に数回程度	年に数回程度	ほとんど行っていない	全く行っていない	無回答
全体		12.0	27.4	15.5	16.6	14.2	13.1	1.2
	10代	14.3	28.6	0.0	14.3	42.9	0.0	0.0
	20代	6.3	9.4	21.9	37.5	12.5	9.4	3.1
	30代	1.8	33.9	16.1	12.5	14.3	21.4	0.0
	40代	4.1	34.0	19.6	12.4	14.4	15.5	0.0
	50代	8.2	23.1	15.7	23.1	17.2	11.2	1.5
	60代	14.9	30.9	12.6	14.9	13.1	12.0	1.7
	70代以上	20.2	25.1	15.3	13.7	12.0	12.6	1.1



資料：令和7年度「スポーツ活動・施設のあり方に関する意識調査」

また、日常的にスポーツをみている人（52.8%）の理由（複数回答）は、多い順に、「好きな種目・競技があるから（74.0%）」、「好きなチームや選手を応援したいから（50.3%）」、「選手のプレーや試合展開に感動・興奮できるから（47.2%）」となっています。

主にみているスポーツは、「野球・ソフトボール」が65.4%で最も多く、次いで「バレーボール」が38.5%、「マラソン（駅伝含む）」が30.2%となっています。

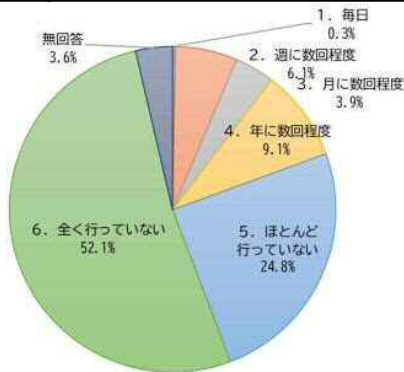
一方、日常的にスポーツをみしていない人（38.0%）がスポーツをあまりみない理由は、「関心がないから（48.1%）」が最も多く、次いで「仕事や家事、育児などで時間がないから（33.1%）」、「自分の生活時間と合わないから（32.3%）」となっています。

1-3 スポーツをささえている市民の割合

アンケート結果では、日常的にスポーツをささえている人（週に数回程度以上スポーツをささえている人①+②）の割合は6.4%であり、日常的にスポーツをささえる活動をしていない人（ほとんど行っていない、と全く行っていない人⑤+⑥）の割合は76.9%となっています。

スポーツをささえている人 (％)

		①	②	③	④	⑤	⑥	
		毎日	週に数回程度	月に数回程度	年に数回程度	ほとんど行っていない	全く行っていない	無回答
全体		0.3	6.1	3.9	9.1	24.8	52.1	3.6
	10代	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	71.4	0.0
	20代	0.0	3.1	3.1	9.4	25.0	56.3	3.1
	30代	0.0	16.1	7.1	5.4	21.4	50.0	0.0
	40代	1.0	15.5	8.2	3.1	24.7	47.4	0.0
	50代	0.0	6.0	2.2	10.4	18.7	58.2	4.5
	60代	0.0	1.7	2.3	12.0	26.3	53.1	4.6
	70代以上	0.5	3.3	3.8	9.3	29.5	48.1	5.5



資料：令和7年度「スポーツ活動・施設のあり方に関する意識調査」

また、日常的にスポーツをささえている人（11.5%）の理由（複数回答）は、多い順に、「何か社会の役に立ちたいから（6.7%）」、「職場や学校、地域などの行事の一環として（6.0%）」、「自分の能力や技術、経験を生かしたいから（5.3%）」となっています。

■課題■

- 市民のスポーツ実施率は、前回調査時から減少しており、特に30代から50代の就労世代、子育て世代においてスポーツ実施率が低い状況となっている。
- 健康増進のためには、継続的な運動が効果的であり、スポーツをする目的として、健康・体力の維持のニーズが高い一方、日常的にスポーツを行っていない人の割合が高い。
- やってみたいスポーツとして、「気軽に行え、健康につながるスポーツ活動」のニーズが高かったが、気軽にスポーツに取り組める機会が充分にない。
- スポーツをささえる活動を行っている人の割合は低い傾向となっており、各スポーツ団体の担い手となる人材の不足、組織の弱体化が懸念される。

1-4 スポーツ教室等の開催

本市では、市民のスポーツ活動を推進するため、スポーツ施設の指定管理者である（一社）一関市スポーツ協会が様々なスポーツ教室やスポーツ・レクリエーション普及事業を実施しています。

スポーツ教室 (生涯スポーツ推進事業)	エアロビクス、ヨガ、バレトン、ピラティス、アクアウォーキング、ジュニア体操、幼児親子体操、ジュニア水泳、幼児スイミング など
スポーツ・レクリエーション普及事業	市民マラソン大会、市民体育大会、ソフトボール大会、ソフトバレーボール大会、駅伝競走大会、ボッチャ大会 など

●事業実績

年度	スポーツ教室	延べ参加人数	スポーツ・レクリエーション普及事業	延べ参加人数
令和4年度	32教室	2,337人	24事業	3,892人
令和5年度	33教室	2,136人	31事業	7,331人
令和6年度	33教室	2,346人	35事業	8,160人

資料：指定管理に関する事業報告書

アンケート結果では、「実施していることは知っているが参加したことはない（43.4%）」、「実施していることを知らない（31.7%）」と回答した人が、合わせて75.1%となっております。

参加したことがない人の理由は、「都合が合わない（40.4%）」が最も多く、続いて「興味がない（27.6%）」となっております

今後、実施して欲しいものは、「小中高生、初心者、高齢者などの段階に応じた教室や行事」が多くなっております。

▶ あなたが参加してみたい、あるいは今後実施して欲しいスポーツ教室等がありますか（複数回答可）

選択肢	割合 (%)
1. 競技スポーツの教室	14.6%
2. ニュースポーツの教室	15.5%
3. ヨガ・エアロビクスなどの教室	18.8%
4. 親子で楽しめるもの	10.8%
5. 小中高生、初心者、高齢者などの段階に応じた教室や行事	24.1%
6. 健常者も障がいのある方も一緒に参加できるもの	14.5%
7. その他	2.2%
8. 特になし	35.0%
無回答	2.8%

資料：令和7年度「スポーツ活動・施設のあり方に関する意識調査」

■課題■

- スポーツ教室を実施していることを知らない人が多数いる。
- **スポーツ教室に参加したことがない理由が、「都合が合わない」が最も多かったことから、多様なライフスタイルに応じた事業となっていない。**
- 続いて「興味がない」「参加したい内容のものがない」との回答が多かったことから、市民ニーズを的確に把握した事業となっていない。

1-5 子どもの体力の現状とスポーツ活動

スポーツ庁が、毎年度、小学5年生及び中学2年生を対象に実施している「全国体力・運動能力等調査」の令和6年度における調査結果を全国平均と本市の平均と比較すると、小学5年生の女子は全国平均を上回っている種目の方が多い一方で、小学校5年生の男子は、全国平均を下回っている種目の方が多くなっています。また、本市における令和元年度と令和6年度の結果を比較すると、小学5年生、中学2年生女子で、令和6年度の記録が下回っている種目が多くなっています。

●体力・運動能力等調査の結果

- ①「R6年度全国平均」欄の「*印」
→「R6年度一関市平均」の記録を基準として、それを上回っている種目
- ②「R元年度一関市平均」欄の「◆印」
→「R6年度一関市平均」の記録を基準として、それを上回っている種目

小学5年生		男子			女子		
種目		R6年度 一関市平均	R6年度 全国平均	R元年度 一関市平均	R6年度 一関市平均	R6年度 全国平均	R元年度 一関市平均
1	握力 (kg)	16.98	16.02	◆17.40	18.06	15.78	17.24
2	上体起こし (回)	16.60	*19.19	◆19.20	16.67	*18.16	◆18.36
3	長座体前屈 (cm)	32.83	*33.79	32.62	38.43	38.21	35.78
4	反復横とび (点)	38.98	*40.67	◆42.81	40.14	38.71	◆42.44
5	20mシャトルラン (回)	43.45	*46.90	◆49.16	37.59	36.60	◆43.02
6	50m走 (秒)	9.83	*9.50	◆9.59	9.91	*9.76	◆9.62
7	立ち幅とび (cm)	140.74	*150.46	◆153.43	137.29	*143.18	◆149.69
8	ソフトボール投げ (m)	18.57	*20.74	◆23.11	13.25	13.15	◆15.83

中学2年生		男子			女子		
種目		R6年度 一関市平均	R6年度 全国平均	R元年度 一関市平均	R6年度 一関市平均	R6年度 全国平均	R元年度 一関市平均
1	握力 (kg)	30.74	28.91	◆30.98	24.23	23.14	◆25.40
2	上体起こし (回)	24.98	*25.82	◆25.56	21.35	*21.47	◆22.27
3	長座体前屈 (cm)	44.27	*44.32	44.18	46.58	46.44	45.38
4	反復横とび (点)	51.79	51.49	51.14	45.91	45.67	◆47.08
5	20mシャトルラン (回)	78.83	78.65	◆80.24	49.52	*50.48	◆56.10
6	50m走 (秒)	7.96	7.99	◆7.93	9.02	*8.81	◆8.78
7	立ち幅とび (cm)	198.14	197.16	197.23	164.93	*169.71	◆167.67
8	ソフトボール投げ (m)	21.30	20.49	20.22	12.59	*12.87	◆13.26

資料：スポーツ庁 全国体力・運動能力等調査結果、一関市教育委員会

子どものスポーツ活動の場は、学校体育、学校教育の一環としての運動部活動、スポーツ少年団活動、民間のクラブチームなどに所属して行う活動、楽しむことを主として仲間同士で行う活動などがあります。

このうちスポーツ少年団は、地域を基盤とする子どもの社会活動として、スポーツを通じて体と心の健全育成を図っています。本市では、令和6年度現在、103の団体に1,795人の団員が様々な競

技に取り組んでいます。が、団員数は年々減少傾向にあり、合同チームを編成して競技に取り組んでいる団体も出てきています。

スポーツ少年団	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
団体数	122 団体	119 団体	111 団体	103 団体
団員数	2,064 人	1,919 人	1,844 人	1,795 人

一関市教育委員会の調べでは、令和6年度における肥満傾向児童の割合は小学5年生、中学生2年生とも全国平均より高い結果が出ています。

近年、スマートフォンやゲーム機等の普及などにより子どもの生活時間の使い方が大きく変化し、スポーツや外遊びの機会が減少傾向にあります。

また、本市では、**少子化による**小中学校の統合に伴い、これまでの徒歩や自転車での通学がスクールバス等の利用に変わったことなども、体を動かす機会の減少につながっていると考えられます。

さらに、**中学生の学校部活動にあっては、生徒数が減少し従前と同様の体制で運営することが難しくなっていること、専門性や意思に関わらず教師が顧問を務めるこれまでの指導体制を継続することは、学校の働き方改革が進む中、より一層難しくなることから、学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働による生徒のスポーツ・文化芸術活動の場の確保が求められています。**

■課題■

- 少子化の影響により児童生徒のスポーツ活動の機会が減少している。
- **令和6年度の本市における児童生徒の体力・運動能力の調査結果は、多くの種目で全国平均を下回り、また令和元年度の本市平均も下回っており、児童生徒の体力・運動能力の低下が懸念される。**

1-6 高齢者や障がい者のスポーツ活動

(1) 高齢者のスポーツ活動

高齢者のスポーツ活動は、健康づくり、介護予防、地域交流、生きがいづくりなどに重要な役割を果たしており、体力や好みに合ったスポーツを継続的に行うことが大切です。

本市では、スポーツ推進委員が、地域で行われる介護予防教室などでニュースポーツや軽体操の普及実践活動を行い、高齢者の健康増進を図っているほか、一関市スポーツ協会が市民センターや地域の集会所などで軽体操の実践を行っています。

また、市の健康づくり、高齢者福祉の担当部署、市民センター、老人クラブ連合会等が、スポーツを通じた健康づくり事業や介護予防事業、世代間交流を促す事業を実施し、高齢者の健康増進や**生きがいづくり**に取り組んでいます。

●事業の例

実施主体	主な実施事業
市のスポーツ推進の担当部署	スポーツ推進委員の派遣事業、全国大会等出場シニア応援金
一関市スポーツ協会	健康増進・体力向上事業 など
市の健康づくり、高齢者福祉等の担当部署	介護予防事業（軽体操、軽運動、レクリエーションなど）、軽運動教室、ウォーキング交流会、軽体操普及推進事業 など
老人クラブ連合会	いきいきシニアスポーツ大会、グラウンド・ゴルフやゲートボールなどの各種競技大会、運動会などを各地域の事業として開催
市民センター	高齢者学級、世代間交流、軽運動や体操教室、各種スポーツ教室、各種スポーツ大会、老人大運動会、地区民運動会、スポーツ体験講座 など

(2) 障がい者のスポーツ活動

障がい者のスポーツ活動は、社会参加の促進、健康の維持・増進、生きがいづくり、仲間づくりなどにつながり、楽しみながら継続的にスポーツ活動を行える環境づくりが必要です。

また、障がいに関する理解を深めるためにも、障がいのある人もない人も一緒にスポーツ活動を楽しむ機会を創出し、障がい者が気軽にスポーツ活動を行える環境づくりが必要です。

市の障がい者福祉の担当部署や市の障がい者交流施設（サン・アビリティーズ一関）では、障がい者の自立や社会参加、体力の増進や交流などを目的とした事業を実施し、障がい者のスポーツ活動を推進しています。

なお、平成 30 年には、市町村単位での障がい者のスポーツ協会としては岩手県内初となる一関市障がい者スポーツ協会（現在は一関市パラスポーツ協会へ名称変更）が発足しています。

●事業の例

スポーツフェスタの開催	障がいのある人もない人も一緒にニュースポーツを楽しみ、地域社会とのふれあいや相互理解を深めることを目的に実施
障がい者ふれあい事業	障がい者が趣味・創作活動を通じて相互の交流やふれあいを図り、自立と社会参加を促進するために開催する講座において、健康体操教室やペタンク教室を開催
障がい者社会参加支援事業	障がい者が活動を通じて相互の交流やふれあいを図り、自立と社会参加を促進するため、一関地方ふれあいスポーツ大会の支援のほか、岩手県障がい者スポーツ大会への選手派遣を実施

■課題■

- アンケート調査結果では、日常的にスポーツをしている高齢者の割合が低い。
- 高齢者のフレイル予防のため、日常生活で運動を習慣化させる取り組みが必要である。
- 障がいのある人が、身近でスポーツに親しむ環境が十分に整備されているとは言えない。
- 人種・性別・年齢・障がいの有無等にかかわらず、誰もが気軽にスポーツに親しみ楽しめる環境づくりが求められている。

2 競技スポーツについて

2-1 スポーツ選手や指導者の育成

本市では、これまで、選手の競技力向上とそれを支える指導者の育成などを支援するため、一関市スポーツ協会などと連携し、全国大会等への出場に対する助成、選手の育成強化支援事業、スポーツ実技講習会の開催、スポーツ少年団指導者の資格取得に対する支援事業などを行ってきました。

全国大会などでの活躍や経験は、選手のモチベーションを上げ、さらなる競技力向上につながるほか、共に活動する仲間などへの刺激や目標となり、競技の普及や意欲の向上につながります。

また、本市にゆかりのある選手やチームが全国や世界を舞台に活躍することは、市民の喜びとなり地域に活力を生み出すほか、夢や憧れとなってスポーツへの関心や参加意欲につながっています。

●主な事業

実施事業	事業内容
全国体育大会等への出場に対する支援事業	東北規模以上の競技大会に出場する小中学生及び高校生に対する遠征費の助成
トップアスリート育成強化支援事業	本市を拠点に全国大会や国際大会に出場し活躍するトップアスリートの育成強化に対する支援
スポーツ合宿誘致事業	市外の大学等のスポーツ部の合宿誘致 (合宿期間中に行う市内の児童生徒への実技指導等)
選手の育成支援事業	一関市スポーツ協会と連携した、種目別競技協会が実施する競技力向上のための事業に対する支援
指導者育成支援事業	一関市スポーツ協会と連携した、種目別競技協会等が実施する指導者育成事業に対する支援
公認スポーツ指導者資格取得・更新支援事業	一関市スポーツ協会と連携した、公益財団法人日本スポーツ協会及び公益財団法人日本パラスポーツ協会が認定する資格の取得・更新に対する助成

2-2 スポーツ大会の開催・支援

スポーツ大会の開催は、選手やスタッフとしての関わり、大会観戦などを通じて競技力やスポーツへの意欲の向上が図られるほか、スポーツ施設の有効活用、交流人口の増加による地域の活性化にもつながっています。

また、スポーツ観戦は、一体感、緊張感、勝利の喜びや感動など、観ている人の心に響く様々な感情をもたらし、スポーツへの関心を高めるほか、子どもたちの夢や憧れにつながります。

●主な事業

実施事業	事業内容
一関国際ハーフマラソン大会	R6年度参加者数：1,964人
花泉マラソン大会「瀬古利彦杯」	R6年度参加者数：462人
スポーツ大会開催に対する支援事業	東北大会規模以上のスポーツ大会を主催する団体または組織に対する開催経費の助成

■課題■

- 人口減少やスポーツの多様化により、**各種目の競技人口が減少している。**
- 中学校部活動の任意加入により、スポーツに取り組む生徒が減少している。
- 種目別競技協会の担い手不足により、組織の弱体化が進み、**また大会運営に必要なスタッフの確保も難しくなっている。**
- 競技力向上を支えている指導者が不足している。

3 スポーツ団体等について

3-1 市民のスポーツ活動を支える団体等

(1) 一関市スポーツ協会

一関市スポーツ協会は、本市のスポーツ施策の中核的な役割を担っており、各種スポーツ事業の実施やスポーツ施設の運営管理を行っています。また、構成団体である一関市スポーツ少年団や、加盟団体である種目別競技協会及び各地区体育協会の育成や活動支援を行いながら、相互に連携し、市民の競技スポーツやスポーツ・レクリエーション活動を推進しています。

(2) 種目別競技協会

市内には種目別競技協会が 33 団体あり、選手の育成や競技力強化を図る事業等の実施、指導者育成を図る講習会等の開催、競技人口拡大に向けた普及活動などを行い、市民のスポーツ活動を支えています。

種目別 競技協会	一関市陸上競技協会	一関市水泳協会	一関市サッカー協会	一関市テニス協会
	一関市バレーボール協会	一関市体操協会	一関市バスケットボール協会	
	一関市ソフトテニス協会	一関市卓球協会	一関市野球協会	一関柔道協会
	一関市ソフトボール協会	一関市バドミントン協会	一関市弓道協会	
	一関クレー射撃協会	一関市剣道協会	一関ラグビーフットボール協会	
	一関市フェンシング協会	一関市空手道連盟	一関市ボウリング協会	
	一関市ゲートボール協会	一関市ゴルフ協会	一関市スキー協会	
	一関市グラウンドゴルフ協会	一関市少林寺拳法協会	一関市朝野球協会	
	一関市バウンドテニス協会	一関市パークゴルフ協会	一関市ペタンク協会	
	いちのせき歩こう会	一関市スポーツウエルネス吹矢協会		
	一関市インディアカ協会	一関市パラスポーツ協会		

資料：一関市スポーツ協会

(3) 地区体育協会

市内には地区体育協会が 39 団体あり、一関市スポーツ協会などと連携してスポーツ行事等を開催し、地域住民が身近な場所でスポーツに親しむ機会の創出や、活動を通じた健康づくり、体力づくり、地域交流などを推進しています。しかしながら、人口減少、少子高齢化、趣味の多様化などの影響を受け、多くの行事で参加者が減少しています。

地域	一関	花泉	大東	千厩	東山	室根	川崎	藤沢	計
団体数	14	7	6	4	1	5	1	1	39

資料：一関市スポーツ協会

(4) スポーツ推進委員

スポーツ推進委員は、PTA行事や自治会の交流事業、高齢者の介護予防教室などでニュースポーツや軽体操の実技指導を行っており、市民に身近な立場で地域スポーツを支え、推進する役割を担っています。また、県の研修会などへの参加や自主研修会などを通じて資質向上に努めています。

派遣事業の利用団体からは、楽しく行事を行うことができたという感想が多く聞かれ、繰り返し活用されている現状もありますが、一方で、アンケート結果では、「スポーツ推進委員の派遣事業を知らない」という回答が69.9%占めており、推進委員の役割や活動の周知について、課題があります。

●事業実績

	PTAや自治会等の行事、 スポーツイベント等への派遣事業		高齢者教室やサロン介護予防教室 等への派遣事業	
	事業数	派遣した人数	事業数	対象者数
令和4年度	71事業	延べ296人	59事業	延べ74人
令和5年度	91事業	延べ336人	56事業	延べ73人
令和6年度	109事業	延べ429人	54事業	延べ84人

資料：一関市スポーツ振興課

●スポーツ推進委員との懇談会で出された課題や意見

現状と課題について
<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ推進委員の活動にほとんど参加できない委員がいるため、負担が偏ってしまう。 ・ スポーツ推進委員としての能力がある適任者は多くいるので、公募による選考もよいのではないか。 ・ スポーツ推進委員の活動には、職場の理解も必要である。 ・ 地域住民には、スポーツ推進委員の認知度は低い。 ・ 地域でスポーツ推進委員の認知度を高めていくことが、なり手不足解消につながる。 ・ 新任のスポーツ推進委員が、ニュースポーツのルールを覚える機会が多く必要である。
市民がスポーツを日常生活に取り入れることについて
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の統合などにより、バス通学が多くなり、歩いている子どもが少なくなったと感じる。子ども達が自然に運動できる環境が少なくなっている。 ・ 親と子のつながりの中で、小さいころからスポーツに取り組むことで、日常生活での運動習慣が身についていくのではないか。 ・ 各地域にスポーツを自由にできる拠点があれば、市民がスポーツに親しむ機会が増える。

(5) 総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブは、地域住民によって自主的・主体的に運営されるスポーツクラブで、スポーツの振興やスポーツを通じた地域づくりに向けて多様な活動を展開し、地域スポーツの担い手としての役割を果たしています。

本市では、令和7年度現在、1つのクラブが活動しており、スポーツウエルネス吹矢教室や体操教室の開催などの活動を行っています。市民の身近なスポーツ活動の場として総合型地域スポーツクラブが担う役割への期待が高まっていますが、活動メニューの多様化、安定した活動場所

の確保、活動のための人材や資金の確保、他のスポーツ団体との連携などが課題となっています。

団体名	設立年	活動内容
NPO法人グッジョブクラブ	平成27年	スポーツウエルネス吹矢教室 わくわく体操教室 など

資料：2018年版 岩手県総合型スポーツクラブガイド（岩手県広域スポーツセンター作成）

3-2 スポーツ団体等への支援

本市のスポーツ活動は、一関市スポーツ協会を中心に、種目別競技協会や地区体育協会の活動に支えられています。

市ではこれらスポーツ団体の運営や活動に対し、支援を行っています

実施事業	事業内容
一関市スポーツ協会への支援	一関市スポーツ協会が実施する事業及び運営に対し支援する
種目別競技協会への支援	一関市スポーツ協会と連携し、種目別競技協会の活動及び事業に対し支援する
地区体育協会への支援	一関市スポーツ協会と連携し、地区体育協会の活動及び事業に対し支援する
一関市スポーツ少年団への活動支援	一関市スポーツ協会と連携し、スポーツ少年団の活動に対し支援する

3-3 スポーツ団体等の課題（懇談会より）

スポーツの推進にあたり、市内のスポーツ関係団体における現状や課題を把握するため、令和7年度に懇談会を開催しました。

- 開催日・・・令和7年8月28日（木）、9月3日（水）
- 対象・・・一関市スポーツ協会、種目別競技協会、総合型地域スポーツクラブ、
小・中学校体育連盟、高等学校体育連盟

●懇談会のまとめ

意見の多かったもの	現状と課題
競技人口の減少	○人口減少によりスポーツをする人が減っている。 ○スポーツの多様化により、競技人口の確保が大きな課題である。 ○社会情勢の変化により企業等がスポーツを重要視しなくなった。 ○中学校部活動の任意加入により、スポーツに取り組む生徒が減少している。
組織の弱体化	○会員の高齢化が進んでいる。 ○新規加入者が減少している。 ○活動会員が固定化している。 ○会員数が減って、財政難である。 ○余裕がなく人材育成ができていない。 ○働き方改革・定年延長で協会活動をする人が確保できず、次世代への引継ぎが難しい。”
指導者の不足	○部活動の地域移行では、保護者へ委ねられることが多く、負担が大きいと感じる。

	<ul style="list-style-type: none"> ○資格取得にあたっての経済的・時間的負担が大きい。 ○多くが無償ボランティアでの指導となっているため、今後の確保は困難である。
活動場所の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の利用予約が過密となっている。 ○無断キャンセルが多い。 ○気軽に誰もがスポーツを楽しめる環境が少ない。 ○学校統合により学校開放で使用できる施設が減っている。
気候変動	<ul style="list-style-type: none"> ○これからは暑さ対策が必要である。 ○スポーツ施設には、冷暖房設備の整備が必要である。

意見の多かったもの	これからの一関市のスポーツ推進に求めること
財政的支援	<ul style="list-style-type: none"> ○地域を主体とするクラブ活動に移行が進んでいるが、それらのクラブにも財政的支援がほしい。 ○会員の減少により、補助金額が年々減少しているが、物価高騰により経費は増加しているので、補助金の算定方法を見直し、増額してほしい。 ○現在支援がある大会開催や全国大会出場への補助金を継続してほしい。
指導者確保	<ul style="list-style-type: none"> ○行政主導による指導者確保の施策を進めてほしい。 ○無償ボランティアでは、指導者が増えないので、指導者確保の支援策を検討してほしい。
活動場所	<ul style="list-style-type: none"> ○市民が利用しやすい場所へ施設を整備してほしい。 ○活動場所へ移動するための支援がほしい。 ○生涯スポーツ推進のために、地域で活動できる施設整備をしてほしい。 ○公共施設を利用しやすいように、柔軟な利用調整、開放時間を拡充してほしい。 ○老若男女、スポーツに触れ合える機会を多く作ってほしい。 ○地域住民の健康づくりと交流の場となる機会を作ってほしい。
競技力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○市、一関市スポーツ協会、種目別競技協会が連携して取組む必要がある。 ○トップアスリートによる講演や実技指導の実施してほしい。 ○全国をこれから目指すアスリートに対する支援も拡充してほしい。
施設	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ施設に冷暖房設備を整備してほしい。 ○利用料金を値上げし、その収益でスポーツ施設を充実させてほしい。 ○スポーツ施設の利用について、地域のチーム等の優先利用、利用料免除することで支援してほしい。

4 スポーツ施設について

4-1 市のスポーツ施設の現状

本市には、令和8年度現在で63のスポーツ施設があります。そのほとんどは合併前の旧市町村で整備した施設であり、市民の日常のスポーツ活動の場として幅広い年齢層で利用されているほか、市民レベルの大会から全国大会まで、様々な規模の競技大会にも活用されています。

また、本市では、63施設のうち、3施設は直営管理で、残りの60施設には指定管理者制度を導入しており、その内訳として、55施設は一関市スポーツ協会、4施設は地域協働体、1施設は藤沢町モータースポーツ協会を指定管理者に指定し、指定管理者が持つ専門性や弾力性、柔軟性という特性を活かし、市民ニーズに対応した施設の効率的、効果的な管理運営に努めています。

地域	スポーツ施設 (令和8年4月1日現在)
一関 【13施設】	一関市総合体育館、東口体育館、一関運動公園野球場／テニスコート／陸上競技場／多目的広場／ソフトボール場、一関武道館、東台野球場、萩荘サッカー場、一関水泳プール、一関サッカー・ラグビー場、一関市産業教養文化体育施設
花泉 【8施設】	花泉体育館、花泉第二体育館、花泉弓道場、花泉テニスコート、花泉水泳プール、花泉運動公園野球場／テニスコート／多目的競技場
大東 【8施設】	大東体育館、大東野球場、大東グラウンド、伊勢館公園野球場、大東バレーボール記念館、春日公園テニスコート（直営）、春日グラウンド（直営）、大東勤労者体育センター（直営）
千厩 【11施設】	千厩体育館、千厩武道館、千厩野球場、千厩多目的グラウンドテニスコート／ソフトボール場／サッカー場／運動広場、清田テニスコート、千厩アイスアリーナ、黄金山キャンプ場、飛ヶ森キャンプ場
東山 【8施設】	東山総合体育館、東山球場、東山テニスコート、東山多目的グラウンド、東山B&G海洋センター、唐梅館パークゴルフ場、唐梅館総合公園クラブハウスえぼっく、東山農村勤労福祉センター
室根 【4施設】	室根体育館、室根テニスコート、室根野球場、室根多目的グラウンド
川崎 【3施設】	川崎体育センター、川崎テニスコート、川崎運動広場
藤沢 【8施設】	藤沢B&G海洋センター、ニコニコドーム、すぱーく藤沢、藤沢体育館、藤沢テニスコート、藤沢運動広場、藤沢スポーツプラザ、藤沢スポーツランド

【スポーツ施設の利用実績】

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
利用件数	74,579件	78,139件	72,994件
利用人数	621,547人	653,812人	624,680人

アンケート結果では、66.3%の人が、市のスポーツ施設を「利用していない」と回答しています。利用しない理由は、「忙しく、利用する余裕がない」(31.5%)、「スポーツをほとんどしない」(43.9%)となっています。

施設の維持管理については、スポーツ施設を含め市全体として公共施設の老朽化が進んでおり、各施設の利用状況や収支状況、また、人口減少の進行や財政計画などの観点から、全市的な公共施設の見直しの取組が進められています。

4-2 学校体育施設の活用

スポーツ施設以外にも、市民のスポーツ・レクリエーション活動及び子供の遊び場の確保のため、市立小学校及び中学校の体育施設（校庭及び体育館）を夜間及び休日に開放しており、年間を通して多くの市民に利用されています。

●利用実績

		小学校（21校）	中学校（14校）	計
令和5年度	件数	6,467件	5,475件	11,942件
	人数	115,302人	69,745人	185,047人
令和6年度	件数	6,788件	5,658件	12,446件
	人数	116,776人	74,518人	191,294人

資料：一関市教育委員会

4-3 市のスポーツ施設への要望

市のスポーツ施設の満足度に対するアンケート結果では、27.0%の人が「満足している」または「やや満足している」と回答しています。

一方で、13.6%の人が「やや不満である」または「不満である」と回答しています。

スポーツ施設の見直しを行う際に優先して見直すべきこととして、50.1%の人が「老朽化が著しい施設、耐用年数が超過している施設」と回答しており、61.3%の人は「既にある施設の改修を優先していくべき」と回答している。

また、スポーツ施設のあり方については68.5%の方が「市民にとって身近で、気軽に利用できる施設を重視」している。

■課題■

- 市内のスポーツ施設は、合併以前に旧市町村で整備された施設が多く、老朽化や大規模改修が同時期に集中することが懸念され、既存施設を現状のまま維持していくことは困難となっている。

5 スポーツを通じた交流について

これまで、「一関国際ハーフマラソン大会」の開催、バレーボールやバスケットボールなどのトップリーグの大会開催などを通じて、全国から多くの参加者や観戦者が本市を訪れています。

また、県及び県内の自治体等で構成する「いわてスポーツコミッション」と連携したスポーツ合宿の誘致を行い、交流促進に取り組んでいます。

これらの取組と合わせて、市、観光協会、商工会議所などが密に連携し、本市の魅力ある地域資源を活かしたスポーツツーリズムを推進することが重要です。

●一関市観光協会及び一関商工会議所から出された意見等

- 市内でのイベントの日程が重なることが多く、宿泊施設が不足する
- 宿泊施設の部屋数の減少、料金が増加している
- 有名選手のモニュメントがあれば観光コースに組み込める
- ハード面の整備が必要ではないか
- 合宿中の利便性の確保
- 補助金の要件緩和
- ターゲット（種目・年代）を絞ったアプローチ
- 市出身者や関係者へのアプローチ

■課題■

- スポーツ合宿の誘致には、他自治体にはない独自性が必要である。
- 観光の繁忙期と合宿時期が重複することが多く、市内の宿泊施設が十分に足りてはいない。
- 市・一関市スポーツ協会・一関市観光協会との連携が十分とは言えない。

6 市のスポーツの推進に対するニーズ

6-1 市民が期待するスポーツの推進

アンケート結果によると、地域のスポーツ活動に期待する効果は、「健康づくりの推進」が53.9%と最も多く、次いで「地域コミュニティの活性化（44.8%）」、「高齢者の生きがいづくり（34.6%）」の順となっています。

今後の市の生涯に渡ってスポーツを行うために必要な施策は、子ども、社会人、高齢者など、各世代に合ったスポーツ活動の推進（49.3%）」が最も多く、次いで「市民が気軽に参加できるスポーツ教室やスポーツイベントの開催（47.0%）」、「公共スポーツ施設の整備・充実（24.7%）」の順となっています。

今後の市の競技スポーツを推進するために必要な施策は、「スポーツ団体や地域でのスポーツ活動への支援（41.5%）」が最も多く、次いで「プロスポーツや国際大会の観戦など「みるスポーツ」機会の創出（26.6%）」、「トップアスリートとの交流や実技指導を受ける機会（24.5%）」、「スポーツ大会誘致による交流拡大や競技スポーツの推進（24.4%）」の順となっている。

6-2 ワークショップでの意見等

今後の市のスポーツの推進にあたり、広く意見等を聴取するためワークショップを開催し、多くの提案や意見等をいただきました。

○開催日・・・6月25日（水）、27日（金）、7月1日（火）、3日（木）

○対象・・・地区体育協会、スポーツ少年団、小・中学校PTA、地域協働体の関係者

●出された意見等

テーマ1 生涯を通じてのスポーツ活動をどうしていくか

- 幼少期からのスポーツ体験の機会に関すること
 - 幼児期から学童期の経験が、生涯スポーツにつながる。
 - 子どもが安心して取組め、親も一緒に体験できる機会の充実が必要である。
 - いろいろなスポーツの体験会などのイベントであれば、参加しやすい。
 - 子どもがスポーツに取り組むには、保護者の協力が必要である。
 - 子ども達は放課後に学校で遊べず、身体を動かす機会も減っている。
 - スポーツのきっかけは、親の影響が強く、きっかけとなる機会の提供が必要である。
 - スポーツ以外の習い事をしている子どもも多い。
 - 未経験者がはじめるきっかけとなる場がない。
- 生産年齢層のスポーツに関すること
 - 子どもがきっかけで、保護者が始める場合もある。
 - スポーツ教室と就労時間が重なり参加できない。
 - 仕事や子育てでスポーツ活動をする時間がない。
- 高齢者のスポーツに関すること
 - ボッチャ、モルックが人気でニュースポーツが好まれている。
 - スポーツ活動を集まれる場として活用する。
 - 類似事業があるので、福祉分野とも連携し世話人の負担感を減らす。
- 地域のスポーツに関すること
 - 指導者の確保が難しい。
 - 競技志向の受け皿はあるが、体験や遊び型の受け皿がない
 - コロナ前より運動会など参加人数が減った。
 - 地域ごとにスポーツを限定してはどうか。
 - 合併による広域化で自治会や行政区での事業は難しくなっている。
 - 地域内のコミュニケーションが低下しており、若者の参加も少ない。
- その他
 - スポーツに関して、気軽に相談できる窓口が欲しい。
 - スポーツ行事に参加でポイントがたまる仕組みを考えてはどうか。

テーマ2 スポーツ団体の育成・支援

- 地区体協に関すること
 - 高齢化により事業の開催が難しい。
 - 広域化したクラブチームの支援がないので、支援できる仕組みを考えたほしい。
- 競技団体に関すること
 - 親がチームに協力できない、子どもを送迎できないことで参加できない子どもがいる。
 - 子どものモチベーションを上げるためにも、目標となる大会を開催してほしい。
 - 行うスポーツを選びやすくするため、情報発信を一元化してほしい。
- 学校部活動の地域展開に関すること
 - 地方には受皿となるチームがない。
 - 地域クラブ活動になることで、様々な世代が関わるきっかけにできるのではないか。
- 指導者に関すること
 - 資格の維持、取得に負担が大きい（時間・交通費）

テーマ3 スポーツ施設

- 公共施設予約システムに関すること
 - 当日キャンセルも多く使いたい人が使えない。
 - 地元の団体を優先してほしい。
 - 団体で複数の個人アカウントを登録しているところもあり、不公平ではないか。
 - 使いづらい、わかりやすいものにしてほしい。
 - 使用料に関すること
 - 市民は市外からの利用者に比べ、安くしてもよいのではないか。
 - 時間帯で料金を変えてはどうか。
 - 料金の計算に面積が入るので、施設によって料金が違うので統一できないか。
 - 施設に関すること
 - 施設により判断基準の違いやローカルルールがあるので、統一してもらいたい。
 - 暑さ対策が必要である。
 - 施設情報の周知→施設でできる競技や使える学校体育館など。
 - 施設で開催される大会などのスケジュールを開示してほしい。
 - 老朽化したので廃止だけでは、気軽にスポーツをできる場所がなくなっていく。
- 敷地内禁煙となっているが、かくれて煙草を吸いポイ捨てが増えているので、分煙場所を設けたほうがよいのでは。

7 現行計画の主な成果のまとめ

[基本目標1]生涯を通じたスポーツの推進

<基本施策1>スポーツに親しむ機会の創出

【取組状況】

- 一関市スポーツ協会と連携して、市民が気軽に参加できる各種スポーツ教室やスポーツ・レクリエーション普及事業を実施した。
- PTA 活動や高齢者教室、地域行事などへスポーツ推進委員を派遣した。

【検証結果】

各種スポーツ教室やスポーツ・レクリエーション普及事業を実施しているが、指標としている「市民のスポーツ実施率」は、アンケート結果では目標値に達していない。また、市民がスポーツ活動に取り組むきっかけとなる情報発信が十分できているとは言えない。

<基本施策2>子どものスポーツ活動機会の充実

【取組状況】

- 種目別競技協会と連携し、スポーツ体験教室を実施した。
- 小学生を対象とするスポーツ教室等を実施し、スポーツ活動の機会を創出した。

【検証結果】

幼児期からスポーツに触れることは、生涯にわたるスポーツの習慣化につながるため、更なる取組みが必要であるとワークショップや懇談会からも多くの声をいただいている。

<基本施策3>高齢者のスポーツ活動の推進

【取組状況】

- 令和6年度からは、全国大会等出場シニア応援金を創設し、高齢者のスポーツ活動推進に一層努めた。

【検証結果】

シニア世代からの要望もあり、新たに創設した応援金制度は、高齢者のスポーツ活動へのモチベーションの一つとなっていることから、継続して取り組んでいく。

<基本施策4>障がい者のスポーツ活動の推進

【取組状況】

- 一関市スポーツ協会、一関市スポーツ推進委員協議会と連携し、障がいの有無や年齢などにかかわらず気軽に参加できるニュースポーツ大会を開催した。

【検証結果】

誰でも参加できるニュースポーツ大会を開催しているものの、障がい者の参加は多くないことから、今後は、一関市パラスポーツ協会との連携や周知方法の工夫を図っていく必要がある。

〈基本施策5〉スポーツ推進委員の活動促進

【取組状況】

- スポーツ推進委員を各種研修会へ派遣し、資質向上を図るとともに、その活動についての周知を行った。

【検証結果】

スポーツ推進委員の派遣数は年々増加傾向にあり、**継続して**地域行事等にスポーツ推進委員を派遣し、市民がスポーツに親しむ機会を増やしていく。

[基本目標2] 競技スポーツの推進

〈基本施策1〉競技力の向上

【取組状況】

- トップアスリート育成強化支援選手を延べ12人（令和3年度～令和7年度）認定し、**遠征等に要する経費を**補助した。
- 市内の小中高校生が東北大会規模以上の競技会に岩手県代表または東北地区代表として出場する際の**交通費等を**補助した。
- 一関市スポーツ協会が主催する著名なスポーツ関係者による講演会やスポーツセミナーなどの開催を支援した。

【検証結果】

岩淵麗楽選手や菊地心和選手など、トップアスリート育成強化支援認定選手が国際大会で活躍しており、**競技力の向上の取組みは**一定の成果を上げている。

また、全国大会へ出場する児童生徒の数も増加傾向にあり、**競技力向上の取組み**の成果として捉えている。

競技スポーツの推進については、市民のスポーツへの興味・関心を高め、スポーツ活動の推進につながることから、継続して取組んでいく。

〈基本施策2〉各種大会の開催・支援

【取組状況】

- 一関国際ハーフマラソン大会、花泉マラソン大会「瀬古杯」、**JDリーグ（女子ソフトボール国内最上位リーグ）、JABA一関市長旗争奪クラブ野球大会、東北地区高等専門学校体育大会といった大規模な大会**の開催を支援した。
- 一関市スポーツ協会と連携して、種目別競技協会が主催するスポーツ大会の開催を支援した。

【検証結果】

トップレベルの大会の開催は、市民のスポーツへの興味・関心を高めるとともに、競技力向上にもつなげることから、**継続して大会の開催を**支援していく。

[基本目標3] スポーツ団体等の育成・支援

〈基本施策1〉一関市スポーツ協会等スポーツ団体の支援

【取組状況】

- 本市のスポーツ推進の中核的役割を担う一関市スポーツ協会の事業及び運営に要する経費に対し補助し、生涯スポーツの推進及び競技力の向上に努めた。
- 一関市スポーツ協会と連携し、種目別競技協会や地区体育協会を支援し、競技力の向上、選手強化、地域住民のスポーツ活動の推進に努めた。

【検証結果】

種目別競技協会会員の高齢化や新規会員の確保が難しいという声が多い。各競技の普及及び競技力向上に競技協会は重要な役割を担っているため、その組織強化のための支援や各種目の体験教室など各競技を知ってもらう取組みが今後は必要である。

〈基本施策2〉スポーツ少年団の活動支援

【取組状況】

- 一関市スポーツ協会と連携し、スポーツ少年団への運営や指導者資格取得更新に対して補助し、スポーツ少年団の活動を支援した。

【検証結果】

少子化の影響により団員数は減少傾向にあり、子どものスポーツ環境の確保のために、支援の継続が必要である。

〈基本施策3〉総合型地域スポーツクラブの設立・育成支援

【取組状況】

- 新たな総合型地域スポーツクラブの設立はなかった。

【検証結果】

部活動の地域展開において、総合型地域スポーツクラブの役割が重要になることから、今後は一層連携を深めていく必要がある。

[基本目標4] スポーツ交流の推進

〈基本施策1〉スポーツツーリズムの推進

【取組状況】

- 市外からも集客が見込めるスポーツイベントを開催した。
- 市外の大学等のスポーツ部が市内で合宿する際の経費の一部を補助し、スポーツ合宿の促進を図った。

【検証結果】

指標としている「市内で開催される東北規模以上の競技大会及びトップリーグ等の競技大会の参加者数」は令和6年度18,700人で、目標値までは達しなかった。スポーツを通じた交流人口拡大のため、今後も継続して取組む必要がある。

＜基本施策2＞スポーツ大会・イベントの誘致

【取組状況】

- 令和4年度から市内で行われる東北規模以上のアマチュアの大会開催の経費の一部を補助する制度を創設することで、**種目別競技協会が誘致する大規模な大会の開催を支援した。**

【検証結果】

指標としている「市内で開催される東北規模以上の競技大会及びトップリーグ等の競技大会の参加者数（観客数含む）」は令和6年度18,700人で、目標値に達しなかった。スポーツを通じた交流人口拡大のため、今後も各競技団体との連携を図り、取組む必要がある。

＜基本施策3＞スポーツ合宿の誘致

【取組状況】

- いわてスポーツコミッションが行う合宿相談会に参加し、大学等のスポーツ合宿の誘致に向けたPRを実施した

【検証結果】

指標としている「合宿促進補助金の交付団体数」は令和6年度10団体で、目標値までは達しなかった。スポーツを通じた交流人口拡大のため、**継続してスポーツ合宿誘致に取組む必要がある。**

[基本目標5]スポーツ施設の利用促進

＜基本施策1＞スポーツ施設や設備の整備・充実

【取組状況】

- **利用者が安全で安心してスポーツ活動ができるよう、施設の修繕・改修を行った。**

【検証結果】

令和6年度の1人あたりの市スポーツ施設利用回数は6回となっており、目標値を達成している。引き続き安全安心を最優先に計画的な改修を行っていく。

＜基本施策2＞利用者のニーズに応じた管理運営

【取組状況】

- **市民サービス向上のため指定管理者制度を導入するとともに、公共施設予約システムを活用することで施設利用の利便性の向上、利用の促進に努めた。**

【検証結果】

概ね利用者のニーズに応じた管理運営がなされており、今後も引き続き**市民サービス向上のため、指定管理者による適切な施設の管理運営に努めていく。**

〈基本施策3〉スポーツ施設の効率的な利用促進

【取組状況】

- 市及び一関市スポーツ協会ホームページを活用し、積極的にスポーツ教室や各種大会等の情報発信を行うとともに、公共施設予約システムの活用により施設の効率的な利用促進を図った。

【検証結果】

指定管理者の取組みと公共施設予約システムの活用により施設の利用促進が図られている。引き続き市民サービス向上のため、指定管理者と連携し適切な施設の管理運営に努めていく。

第3章 基本理念と基本目標

- 1 基本理念
- 2 基本目標

第3章 基本理念と基本目標

1 基本理念

誰もがスポーツをより身近なものとして感じ、「する」「みる」「ささえる」といった自分に合った関わり方で気軽にスポーツに親しむことは、生涯にわたって健康でいきいきとした生活を送ることに繋がります。

また、スポーツを通じた交流は、人と人とのつながりを創出し、地域の一体感や活力を醸成するとともに地域経済の活性化にも寄与します。

本計画では、第1期一関市スポーツ推進計画の基本理念を継承・展開させ、市民一人ひとりがスポーツを日常生活の一部に取り入れ、スポーツの持つ力を享受することは、健康で充実した市民生活、活力あるまちづくりにつながることから、基本理念を次のとおり定めます。

誰もが自分らしくスポーツに親しみ 健康でいきいきとした生活を享受

2 基本目標

基本理念を実現するため、施策を展開する方向として、次の4つの基本目標を定め、スポーツの推進に取り組みます。

基本目標 1 スポーツを「する」市民の拡大

性別、年齢、障がいの有無に関わらず、誰もがライフスタイルやライフステージに応じて、気軽にスポーツに親しむ機会を創出・提供することで、日常的にスポーツをする市民を増やします。

基本目標 2 スポーツを「みる」市民の拡大

市民が身近なところでトップレベルの大会を観戦する機会の充実を図ることで、スポーツをみる市民を増やし、スポーツに対する興味・関心を高めます。

基本目標 3 スポーツを「ささえる」市民の拡大

スポーツ団体などにおける人材の確保・育成を支援することで、スポーツ活動をささえる市民を増やし、市民が生涯にわたってスポーツに親しむ機会の確保を図ります。

基本目標 4 スポーツで「つながる」機会の拡大

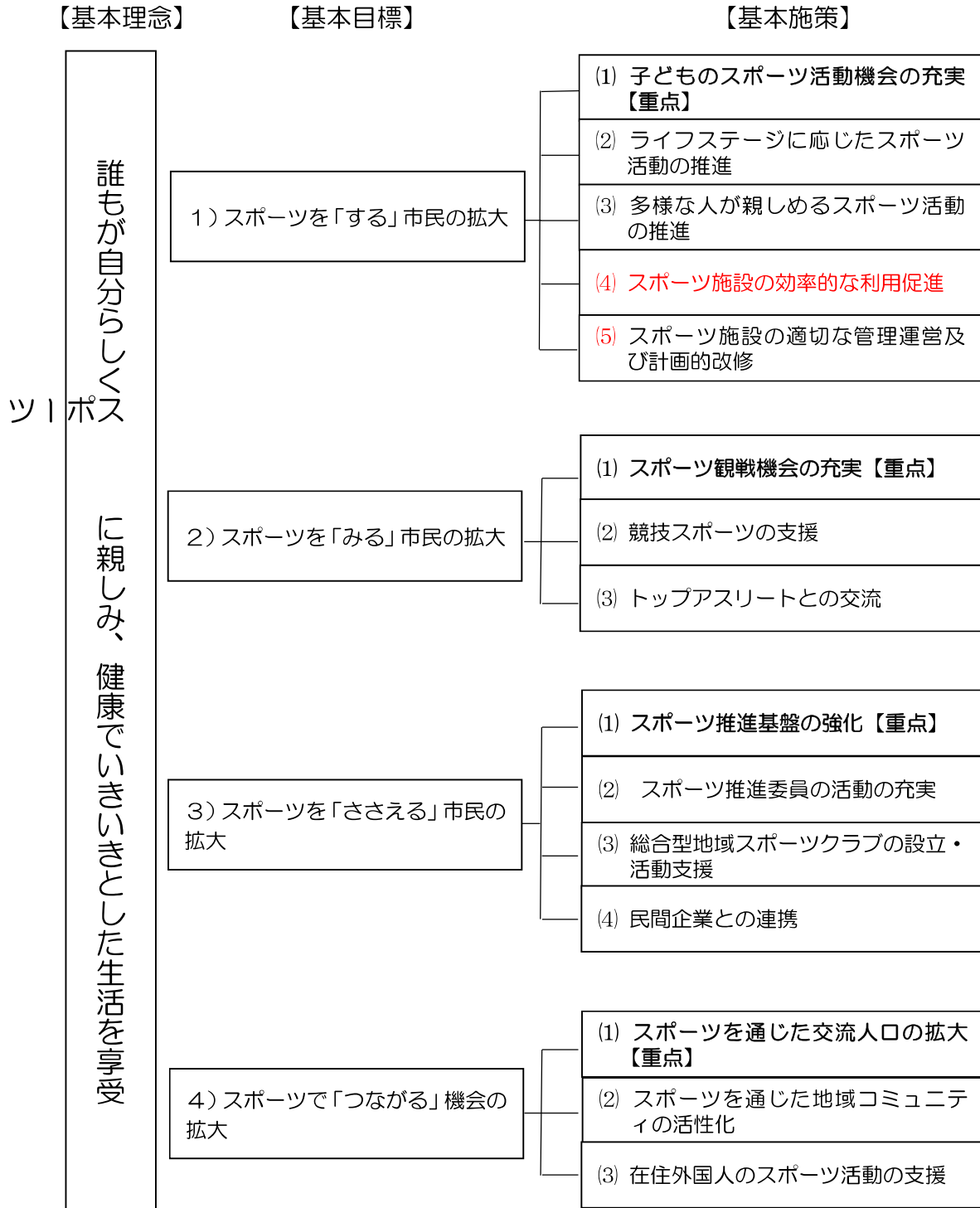
大規模なスポーツ大会やスポーツイベントの開催支援、スポーツ合宿の誘致、地域スポーツ行事の充実に取り組むことで、スポーツを通じた交流の機会を増やし、まちづくり・地域活性化につなげます。

第4章 目標達成に向けた施策

- 1 施策の体系
- 2 SDGsを踏まえた取組
- 3 スポーツ推進施策の展開

第4章 目標達成に向けた施策

1 施策の体系



2 SDGsを踏まえた取組

SDGs（Sustainable Development Goals）は「持続可能な開発目標」の略称で、経済・社会・環境の3つの側面のバランスが取れた社会を目指す世界共通の目標です。2030年までに達成する17のゴール（目標）で構成されています。

本市においても、SDGsの理念を踏まえ各種施策に取り組んでおり、本計画の推進にあたってはSDGsの視点を意識して施策を展開します。



3 スポーツ推進施策の展開

1) スポーツを「する」市民の拡大



スポーツは、体を動かすという人間の本源的な欲求に応え、精神的充足をもたらすとともに、健康寿命の延伸につながり、人生を豊かで充実したものにする重要な役割を果たします。

誰もが、性別、年齢、障がいの有無に関わらず、ライフスタイルやライフステージに応じて、気軽にスポーツに親しむ機会を創出・提供することで、日常生活にスポーツを取り入れる市民を増やします。

【施策】

(1) 子どものスポーツ活動機会の充実【重点】

子どもの頃から体を動かし、スポーツをする楽しさを味わうことにより、生涯にわたってスポーツに親しむ習慣が身に付くため、関係団体等と連携し、子ども達がスポーツを体験する機会の充実に取り組みます。

また、中学校における部活動の地域展開を推進し、生徒が生涯にわたってスポーツに親しむ機会の確保に取り組みます。

	主な施策	施策の概要
1	幼児期の運動遊びの充実	一関市スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブと連携し、親子で運動遊びを楽しめるイベント・教室を実施する
2	スポーツ少年団の活動支援	一関市スポーツ協会と連携し、スポーツ少年団の活動を支援する

3	部活動の地域展開の推進	部活動の関係団体と連携し、地域展開の受け皿となる地域クラブ団体の設立・運営を支援し、地域における中学生のスポーツ活動の充実を図る
4	スポーツ体験会の開催	一関市スポーツ協会、種目別競技協会と連携し、児童生徒がスポーツに触れる体験会を開催する

(2) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

市民が生涯にわたってスポーツに親しむことができるよう、幅広い世代に応じたスポーツ活動の機会の創出・提供に取り組みます。特に、スポーツ実施率の低い働く世代や子育て世代には、気軽にスポーツを始められるきっかけづくりの提供に取り組みます。

また、人生 100 年時代の中、高齢者が仲間と一緒に目標を持ってスポーツを続けることを応援します。

	主な施策	施策の概要
1	スポーツ教室とスポーツ・レクリエーション事業の実施	一関市スポーツ協会と連携し、市民のニーズやライフステージに合わせた各種スポーツ教室と、幅広い年齢層で参加できるスポーツ大会やスポーツ・レクリエーション事業を実施する。
2	スポーツ推進委員の派遣	PTA、地域団体、老人クラブ等が行うスポーツ・レクリエーション事業にスポーツ推進委員を派遣する。
3	スポーツ実施の啓発	育児の合間や、職場の休憩時間等に取り組むことのできるスポーツ活動について情報発信する
4	幼児期の運動遊びの充実【再掲】	一関市スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブと連携し、親子で運動遊びを楽しめるイベント・教室を開催する
5	シニア全国大会出場応援	全国から選手が集まるスポーツ大会に出場するシニア世代に応援金を支給する

(3) 多様な人が親しめるスポーツ活動の推進

障がいによってスポーツをする機会が限られてしまうことがないように、障がいのある人がスポーツに親しむ環境づくりに取り組みます。

また、多様性を認め合い、誰もが活躍できる共生社会の実現を目指し、障がいの有無や年齢、性別、国籍などに関わらず、誰もが一緒にスポーツに親しむ機会の創出・提供に取り組みます。

	主な施策	施策の概要
1	障がいのある人のスポーツへの参画促進	一関市スポーツ協会、一関市パラスポーツ協会と連携し、障がいのある人がスポーツに親しむきっかけとなるイベントを実施する
2	インクルーシブスポーツの普及啓発	障がいの有無、年齢、性別、国籍などにとらわれず、多様な人が一緒にスポーツに親しむことのできるイベントを開催する
3	在住外国人のスポーツ活動の支援	やさしい日本語や多言語を用いて、スポーツに関連する情報発信と施設利用案内を行う

(4) スポーツ施設の効率的な利用促進

公共施設予約システムの運用により、スポーツ施設の効率的な利用促進を図ります。

また、市民の身近なスポーツ活動の場として、一関市教育委員会と連携し学校体育施設の活用を図ります。

	主な施策	施策の概要
1	スポーツ施設の効率的な利用促進	公共施設予約システムの運用により、施設の効率的な利用促進を図る
2	学校体育施設の開放	一関市教育委員会と連携し学校体育施設の活用を図る

(5) スポーツ施設の適切な管理運営及び計画的改修

スポーツ施設の指定管理者と連携し、市民が利用しやすい施設の管理運営、適切な保守管理による施設の機能維持により、質の高いサービス提供に努めます。

また、急速な少子高齢化が進む中、市民に安全で安心なスポーツ施設を持続的に提供していくことができるよう一関市公共施設等総合管理計画及びその個別施設計画に基づき計画的な施設改修を行います。

	主な施策	施策の概要
1	スポーツ施設の指定管理	業務の専門性、特殊性を考慮し、市民サービス向上のため、 スポーツ施設の指定管理者に管理運営を委任する
2	スポーツ施設の計画的改修	多くのスポーツ施設が老朽化しているため、個別施設計画に基づき計画的な改修を行っていく

2) スポーツを「みる」市民の拡大



スポーツ大会でトップアスリートが活躍する姿は、見る者に夢と大きな感動を与え、スポーツへの興味・関心を喚起し、スポーツ実施を促す効果があります。

多くの市民が身近なところでスポーツに触れ、スポーツに対する興味・関心を高めるため、トップレベルの大会を観戦する機会の充実に取り組みます。

【施策】

(1) スポーツ観戦機会の充実【重点】

本市でトップレベルの大会が開催されることは、市民にスポーツ観戦の機会を提供し、スポーツへの興味・関心を高めることが期待されるため、種目別競技協会等が誘致する大規模なスポーツ大会・スポーツイベントの開催を支援します。

また、市民がスポーツ観戦をより身近に楽しむことができるよう、パブリックビューイングなどの観戦機会を提供します。

	主な施策	施策の概要
1	大規模なスポーツ大会・スポーツイベントの開催支援	種目別競技協会等が誘致する大規模なスポーツ大会やスポーツイベントの開催を支援する

2	パブリックビューイングの実施	本市にゆかりのあるトップアスリートが出場する大会等のパブリックビューイングを実施する
---	----------------	--

(2) 競技スポーツの支援

本市の誇りとなる競技者が数多く輩出され、全国トップレベルの大会、さらには国際大会でその活躍を見ることにより、市民のスポーツへの興味・関心が高まるため、本市を拠点に活躍するトップアスリートの育成強化を支援するとともに、本市の児童生徒の競技力向上のため、全国大会等への出場を支援します。

	主な施策	施策の概要
1	トップアスリートの育成強化支援	本市を拠点に活躍するトップアスリートが、強化試合等への出場等に要する経費に対し補助する
2	全国体育大会等への出場支援	本市の小中高生が、東北大会規模以上の競技会等に出場するために要する経費に対し補助する

(3) トップアスリートとの交流

トップアスリートの高い技術力を間近で見たり、直接指導を受けることで、市民のスポーツへの興味・関心が高まることから、トップアスリートと交流する機会の創出・提供に取り組みます。

	主な施策	施策の概要
1	トップアスリートのスポーツ教室の開催（支援）	一関市スポーツ協会、種目別競技者協会等と連携し、トップアスリートのスポーツ教室を開催するとともに、スポーツ団体によるトップアスリートのスポーツ教室の開催を支援する

3) スポーツを「ささえる」市民の拡大



市民が将来にわたって継続的にスポーツに親しむには、スポーツ団体やスポーツ指導者といったスポーツをささえる活動に関わる組織や人の存在が不可欠です。

そのため、一関市スポーツ協会及び種目別競技協会等を支援するとともに、スポーツ活動を支える人材の確保・育成に取り組みます。

また、民間企業の協力は、持続可能なスポーツ環境づくりに寄与することとなるため、民間企業との連携を促進します。

【施策】

(1) スポーツ推進基盤の強化 **【重点】**

本市におけるスポーツ推進の中核を担う一関市スポーツ協会を支援するとともに、市民の持続可能なスポーツ活動機会を確保するため、一関市スポーツ協会と連携し、種目別競技協会、地区体育協会等が継続して活動を行えるよう支援します。

また、児童生徒のスポーツに親しむ機会を確保するため、スポーツ少年団の活動と部活動

を地域でささえる地域クラブ団体の活動を支援します。

	主な施策	施策の概要
1	一関市スポーツ協会への支援	一関市スポーツ協会の実施事業や運営に要する経費を補助する
2	種目別競技協会への支援	一関市スポーツ協会と連携し、種目別競技協会の人材確保と育成、競技普及、指導者養成等を支援する
3	地区体育協会等への支援	一関市スポーツ協会と連携し、地域スポーツ活動の普及奨励を行う地区体育協会等を支援する
4	スポーツ少年団の活動支援【再掲】	一関市スポーツ協会と連携し、スポーツ少年団の活動を支援する
5	部活動の地域展開の推進【再掲】	部活動の関係団体と連携し、地域展開の受け皿となる地域クラブ団体の設立・運営を支援し、地域における中学生のスポーツ活動の充実を図る

(2) スポーツ推進委員の活動の充実

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法に規定する非常勤の公務員として、地域スポーツの推進に大きく貢献しています。市民にスポーツの楽しさを伝え、誰もが気軽にスポーツに親しむ環境づくりを進めるため、スポーツ推進委員の確保・養成に取り組みます。

	主な施策	施策の概要
1	新規スポーツ推進委員の確保・養成	スポーツ推進委員の人材確保と養成を行う

(3) 総合型地域スポーツクラブの設立・活動支援

子どもから高齢者まで幅広い世代が身近にスポーツに親しむ拠点として、総合型地域スポーツクラブが果たす役割が大きいいため、総合型地域スポーツクラブの設立と活動を支援します。

	主な施策	施策の概要
1	総合型地域スポーツクラブの設立・活動支援	新たな総合型地域スポーツクラブの設立を支援するとともに、総合型地域スポーツクラブとの連携を強化し活動を支援する

(4) 民間企業との連携

民間企業から協賛の協力を得ることで、市民の継続的なスポーツ活動機会の確保が図られることから、民間企業との連携を促進します。

	主な施策	施策の概要
1	ネーミングライツの実施	スポーツ施設へのネーミングライツ実施により、安定した施設運営を図る
2	スポーツ大会等への企業協賛	スポーツ大会等を継続的に開催していくため、民間企業とのスポンサーシップを醸成する

4) スポーツで「つながる」機会の拡大



市内で行われるスポーツ大会・スポーツイベント、スポーツ合宿は、スポーツの推進はもとより、交流人口の拡大や地域経済の活性化に寄与します。

本市においても人口減少が進む中、まちづくり・地域活性化を図るため、大規模なスポーツ大会・スポーツイベントの開催支援や、スポーツ合宿の誘致に取り組みます。

また、スポーツを通じ人々のつながりが深まることは、地域の一体感や活力の醸成に結びつくことから、地域のスポーツ活動を支援し、在住外国人も地域の一員としてスポーツに親しむ機会の提供に取り組みます。

【施策】

(1) スポーツを通じた交流人口の拡大【重点】

種目別競技協会が誘致する市外からの参加者や観戦者が集まり、市民の競技力向上にもつながる大規模なスポーツ大会・スポーツイベントの開催を支援します。

また、市内のスポーツ施設を有効活用し、市内のチーム等との交流による競技力向上や交流人口の拡大を図るため、関係団体と連携したスポーツ合宿の誘致に取り組みます。

	主な施策	施策の概要
1	大規模なスポーツ大会・スポーツイベントの開催支援【再掲】	種目別競技協会等が誘致する大規模なスポーツ大会やスポーツイベントの開催を支援する
2	スポーツ合宿の誘致	いわてスポーツコミッション、一関市観光協会、一関商工会議所、種目別競技協会、市内宿泊施設等と連携を図りながら、本市の情報発信を積極的に行い、スポーツ合宿誘致を促進する

(2) スポーツを通じた地域コミュニティの活性化

スポーツは、住民同士のつながりを深め、地域に活力を生み出す効果が期待されるため、スポーツ推進委員を地域行事に派遣し、また、地区体育協会や地域協働体が行う活動を支援し、地域の多世代と一緒にスポーツに親しむ機会の創出・提供に取り組みます。

	主な施策	施策の概要
1	スポーツ推進委員の派遣【再掲】	PTA、地域団体、老人クラブ等が行うスポーツ・レクリエーション事業にスポーツ推進委員を派遣する。
2	地区体育協会等への支援【再掲】	一関市スポーツ協会と連携し、地域スポーツ活動の普及奨励を行う地区体育協会等を支援する

(3) 在住外国人のスポーツ活動の支援

グローバル化社会の進展に伴い、今後、本市においても在住する外国人の増加が予想されることから、多文化共生の一環として、一関市国際交流協会及び一関市スポーツ協会と連携し、在住外国人が市民とともにスポーツに親しむ場や機会を提供します。

	主な施策	施策の概要
1	在住外国人のスポーツ活動の支援【再掲】	やさしい日本語や多言語を用いて、スポーツに関連する情報発信と施設利用案内を行います。

第5章 計画の推進

- 1 計画の評価指標
- 2 計画の推進体制
- 3 計画の進行管理

第5章 計画の推進

1 計画の評価指標

(1) 一関市総合計画前期基本計画

	指 標	単位	現状値	目標値 【令和12年度末】	備考
1	全国規模の大会への出場者数	人	令和6年度 222人	258人	現状値に対して概ね16%の増を目指す

(2) 本計画で設定する指標

	指 標	単位	現状値	目標値 【令和12年度末】	備考
1	日常的（週に数回程度以上）にスポーツをしている市民の割合	%	令和7年度 24.7%	29%	現状値に対して概ね16%の増を目指す
2	日常的（週に数回程度以上）にスポーツをみている市民の割合	%	令和7年度 39.4%	46%	
3	日常的（週に数回程度以上）にスポーツをささえている市民の割合	%	令和7年度 6.4%	7%	
4	スポーツを通じてつながる機会の件数 （スポーツ大会・スポーツイベント・スポーツ合宿・地域スポーツ行事の合計数）	件	令和6年度 260件	302件	

2 計画の推進体制

計画を効果的に推進するため、行政はもとより、市民、**地域団体**、スポーツ団体、民間企業等の各主体が、それぞれの役割を分担しながら連携・協働していくことが必要であり、各主体に求められる役割は次のとおりです。

(1) 行政（市）

庁内のスポーツ、健康、高齢者福祉、障がい者福祉、学校教育、観光などの担当部署が一体となって、スポーツ施策を展開するとともに、スポーツ団体と密に連携し、また、県や周辺市町などとも情報共有や緊密な連携を図りながら、市のスポーツ施策を推進します。

(2) 市民

市民は、スポーツ活動の主体であり、生涯にわたってスポーツを「する」「みる」「ささえる」といった多様な形で、またライフステージやライフスタイルに応じ、自発的にスポーツに取り

組むことが求められます。

(3) 地域団体

自治会などの地域団体は、地域行事にスポーツを取り入れ、地域住民が気軽にスポーツに親しむ機会を提供するとともに、スポーツを通じた地域間交流や仲間づくりを促進することが求められます。

(4) 一関市スポーツ協会ほかスポーツ団体

行政や各団体との連携を強化し、市民が生涯にわたってスポーツに親しむ機会の充実を図るとともに、市民の体力づくりや健康づくりの実践、競技スポーツの普及、競技人口の拡大、競技力の向上につながる活動の展開が求められます。

(5) スポーツ推進委員

自らのスポーツ知識の修得と指導技術の向上を図るとともに、行政と市民のパイプ役となり、地域住民のニーズに合ったスポーツの普及啓発や実技指導などを行い、地域スポーツのコーディネーターとして地域スポーツを推進していくことが求められます。

(6) 総合型地域スポーツクラブ

地域住民が主体となって運営している特性を活かし、地域住民の興味・関心やレベルに応じた様々なスポーツ活動を継続的に行える場や機会を創出していくことが求められます。

(7) 学校

学校体育活動を通じて、児童生徒の健康の保持増進や体力の向上などを図るとともに、市立小・中学校においては、市民に学校体育施設を開放し、より身近にスポーツ活動に親しめる環境を提供します。

(8) 民間企業

スポーツについての理解を深め、企業が持つ人材、資金、情報、施設などの資源を活かし、事業活動や社会貢献活動を通して、市民のスポーツ活動を後押ししていくことが求められます。



写真

3 計画の進行管理

計画の推進にあたっては、Plan（計画する）、Do（実行する）、Check（評価する）、Action（改善する）の「PDCA」サイクルで計画の進行管理を行います。

また、市内スポーツ団体、学校関係者、まちづくりスタッフなどで構成する一関市スポーツ推進審議会において計画の進捗状況や施策の効果等を検証・評価し、必要に応じて施策や事業の見直し、改善を行いながら、計画の着実な推進を図ります。

